

経営比較分析表（令和3年度決算）

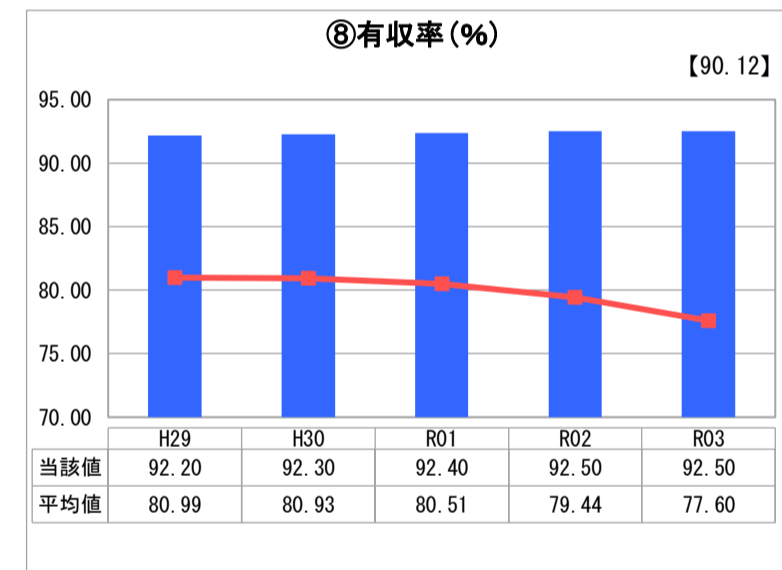
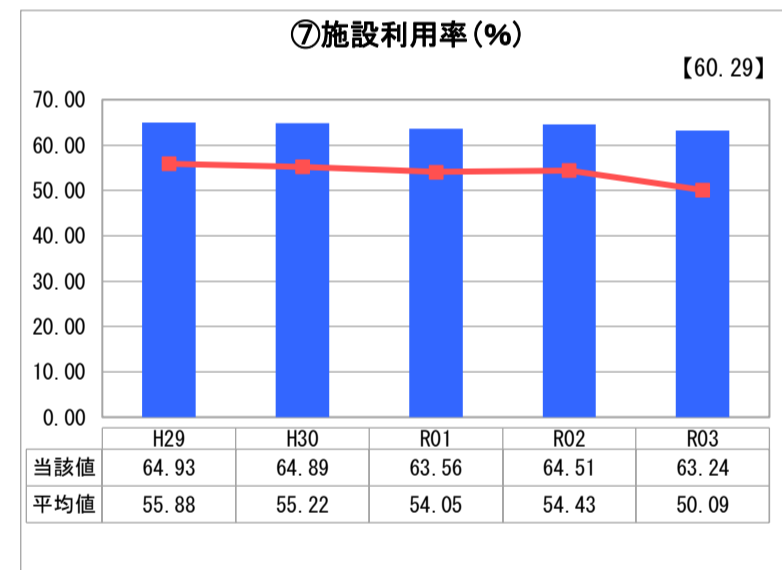
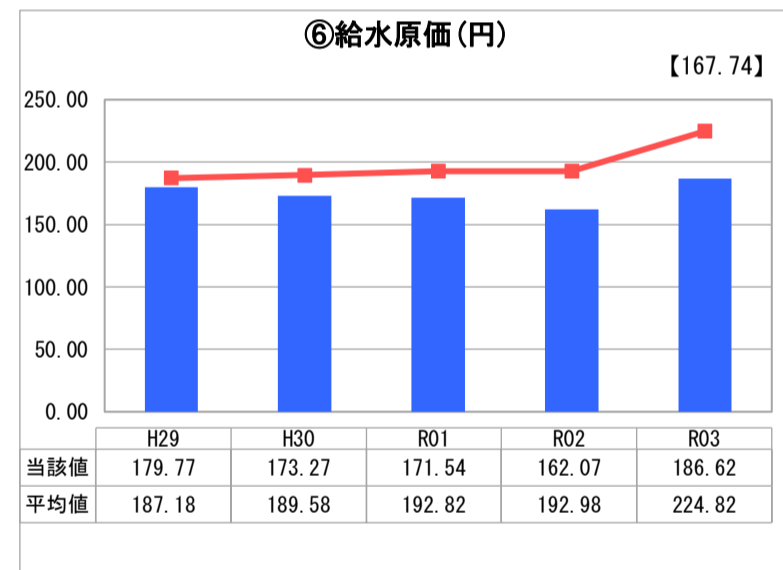
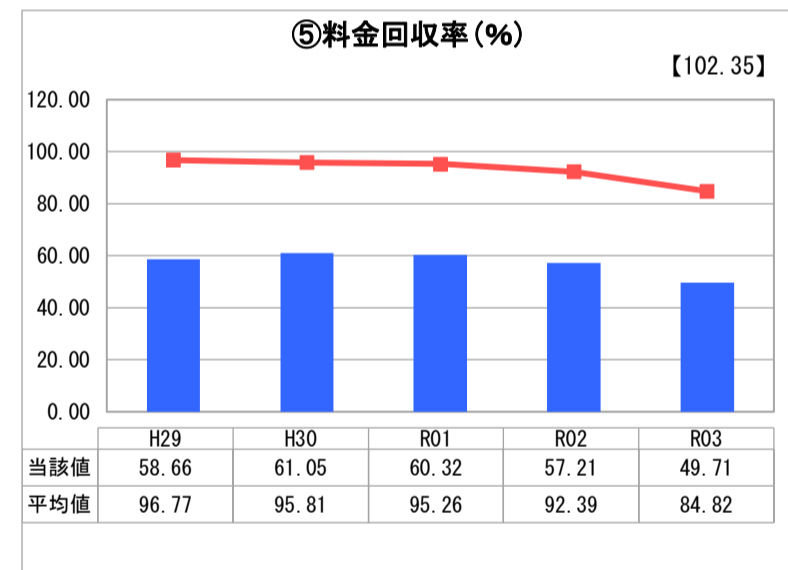
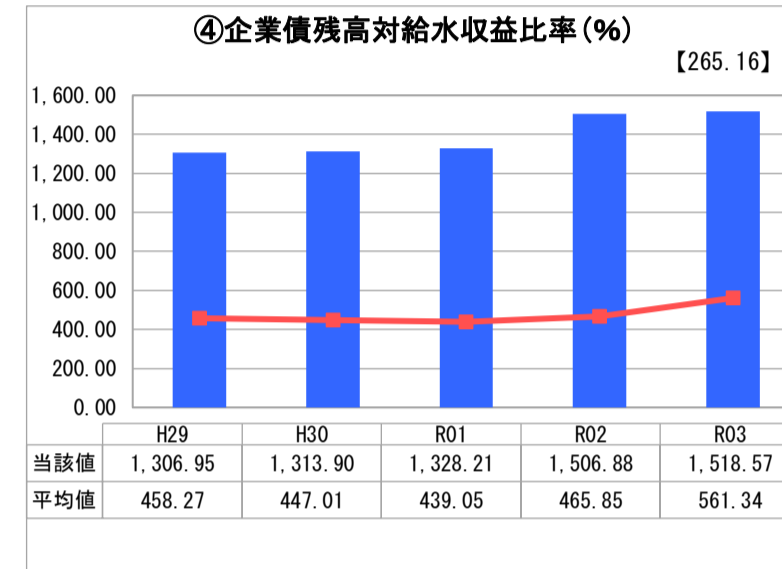
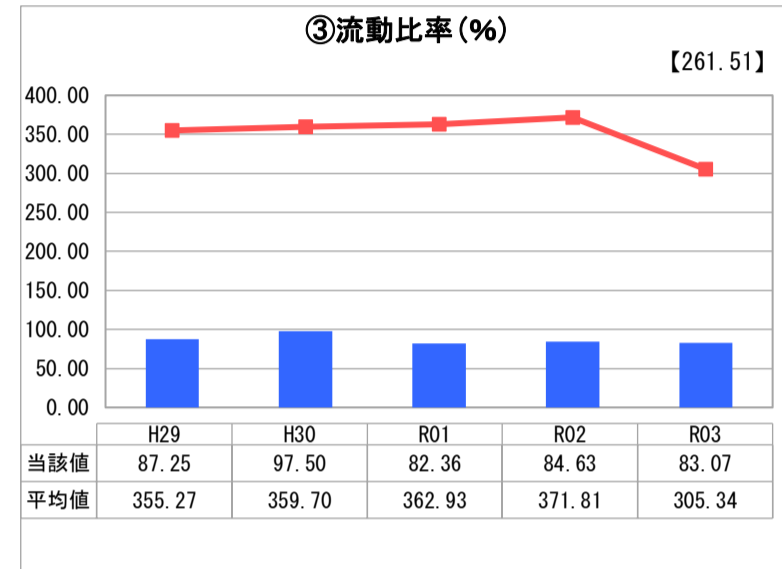
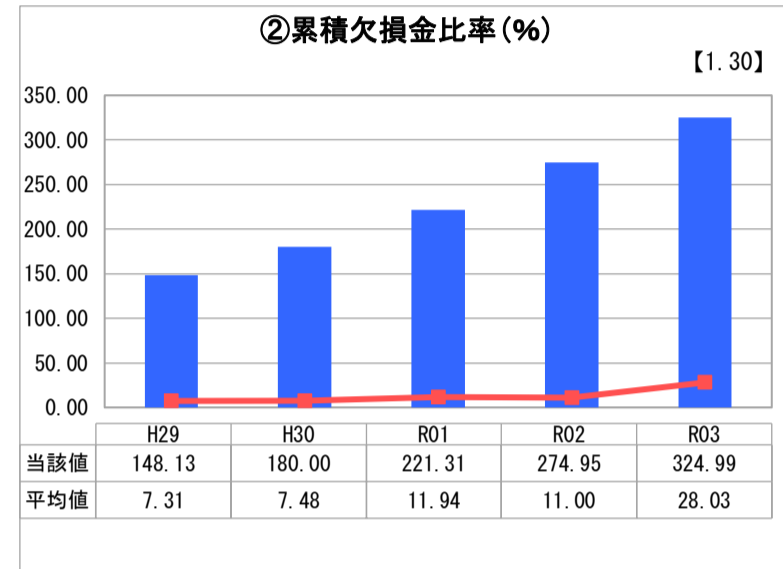
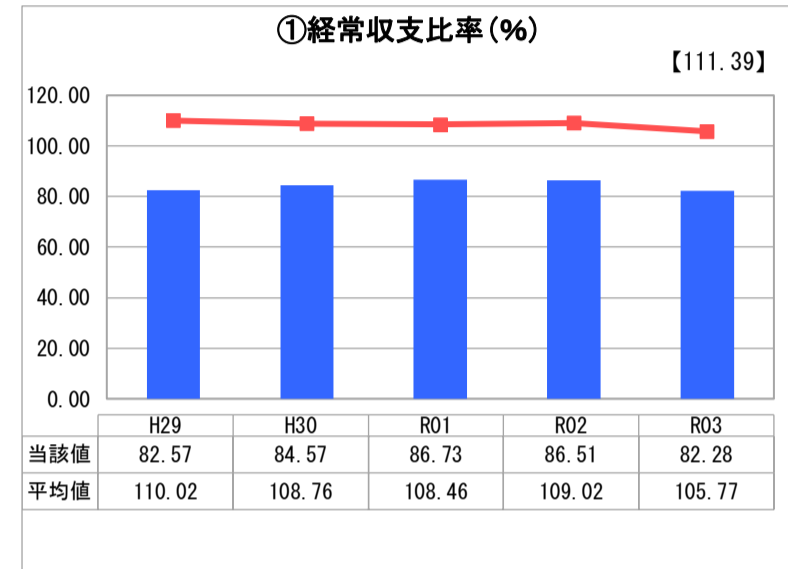
鳥取県 伯耆町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.03	94.36	2,200	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,624	139.44	76.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,958	28.27	352.25

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率②累積欠損金比率
 経常収支比率が100%を下回り(単年度収支が赤字)、また、累積欠損金が増加傾向にあり、経営の健全性に課題がある数値を示している。今後、長期前受金収益化の見直しにより、収益の増加を見込むとともに、経常費用の抑制等を図り、経営改善を図っていく。

③流動比率
 100%を下回って推移している。旧簡水時代の企業債償還費用が大半を占めており、繰入を受けて支払いを行っており、支払能力に問題が生じる見込みはない。

④企業債残高対給水収益比率
 前年同様、水道基本料金の減免(4ヶ月)により給水収益が減少している。また、管路等更新による企業債発行の影響が出ている。企業債償還はピークにきており、今後の数値は横ばいから改善方向に推移していく予定である。

⑤料金回収率
 100%を下回っており、給水収益以外の他会計補助金等によって費用が賄われている状況にある。

⑥給水原価
 類似団体と比べると低値で推移している。

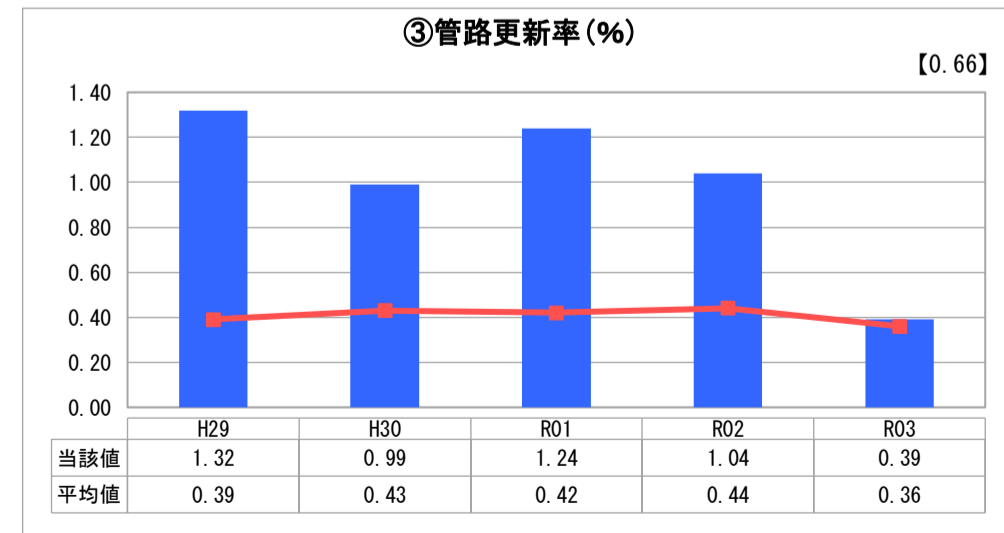
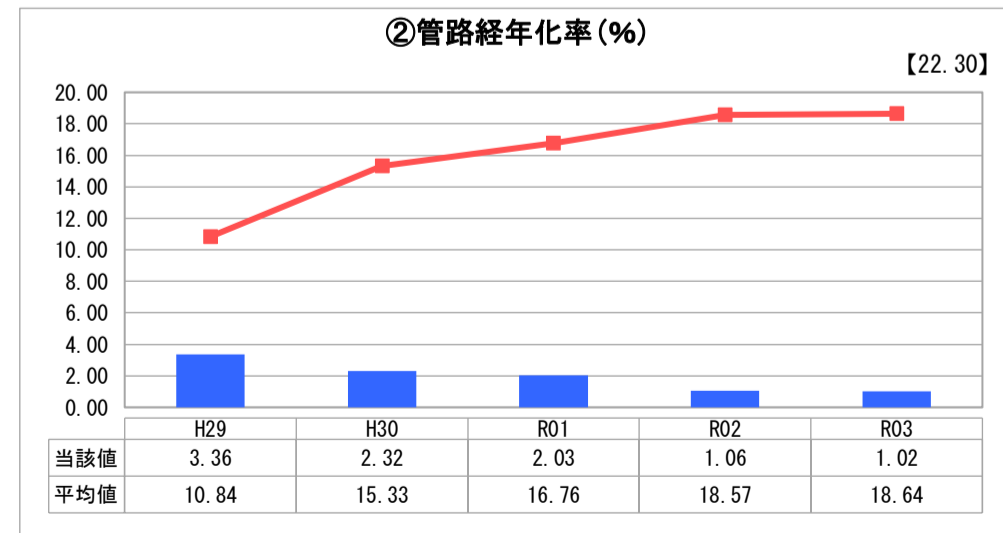
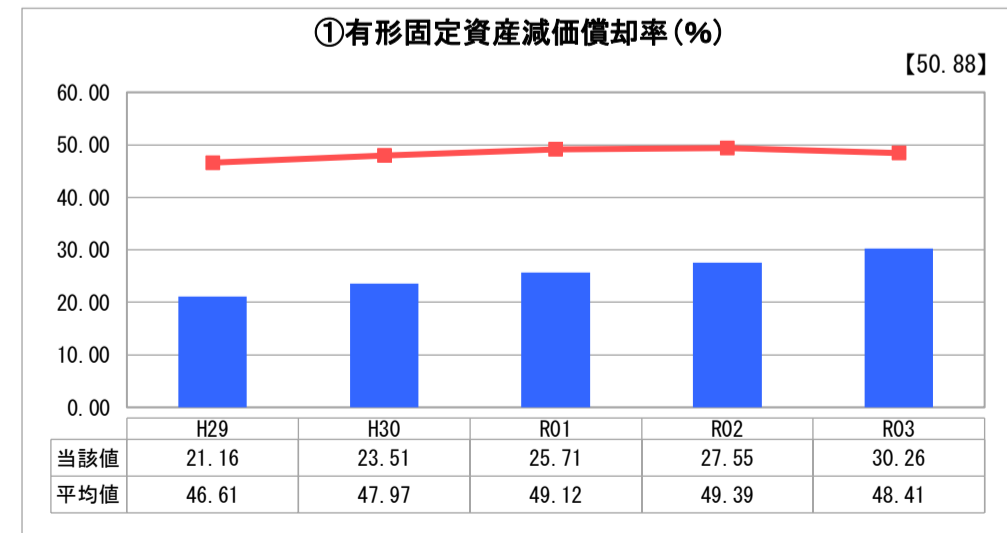
⑦施設利用率⑧有収率
 全国平均・類似団体を大きく上回っており、施設の稼働が収益につながっている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
 ②管路経年化率
 全国平均・類似団体を大きく下回っており、老朽化割合は比較的少ない。

③管路更新率
 老朽管更新の実施により、他団体と比べて高い数値を示している。今後も、継続的に更新を行う予定としている。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成28年度から簡水事業を上水統合したことによって大きく値が悪化している指標が多くなっている状況である。
 今後、健全経営に向けた収入の維持、歳出抑制を図りながら、計画的な資産管理を行い、安心安全な飲料水供給に努めたい。